

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No. 11

2007年1月発行

昨年はお世話になりありがとうございました。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

今年がみなさんにとって幸多き年となりますように！

障害児地域生活支援

1. スポーツ大会

2006年11月26日(日) 13:30~16:00

大阪市立旭区民センター 小ホール

参加者 27名(大人 10名、子ども 17名 うち障害児 10名)
ボランティア 19名(大学生 15名、短大生 3名、専門学校生 1名)

大阪工業大学の学生さん達を中心に企画・運営をしていただき、障害のある子もない子も楽しめるスポーツ大会を開催しました。ご参加の皆さんありがとうございました。

プログラムは、「はちゃめちゃドッチボール」と「人間障害物競走」でした。初めてのスポーツイベントということもあり、始まってからいろいろな準備不足に気づき、みなさんにご迷惑をおかけしました。でも、みなさんが積極的に参加してくださり、子どももボランティアも元気いっぱいの活動ができました。また、ボランティアも、さまざまな学校からの参加があり、学生さん同士の交流もできて、今後の活動につながっていきそうです。次年度に向け大きな期待をしています。今回の反省点は次回にいかしていきたいと思ひます。

<参加保護者の感想から>

- ・ 予想していたよりスムーズに仲間に入って楽しそうだったので良かったです。
- ・ ゲームの説明もわかりやすく、子どもも喜んでゲームに参加できました。いつもより気分はハイでした。学生さんも優しく接してくれ、仲良くやってくれていました。
- ・ 今日は子どもの新しい一面を見れて良かったです。

- ・ 欲を言えばもう少し広い場所が良かったかなあ。でも、子ども達は皆楽しそうで良かったです。
- ・ 消極的な子なので、ゲームの間も黙ってじっとしていました。みんなの元気に圧倒されたようです。でも、決して楽しくなかったわけではなく、毎回、元気をもらって家に帰った後、どんなことをしてどんなに楽しかったかを説明してくれています。身体を動かしていろいろなゲームをすること、とても良かったと思います。



- ・ 最初、場所に慣れるのに少し時間がかかりましたが、一度走り回ってみると全力投球の一日でした。ボランティアの皆さんともいろいろと遊んで、楽しく元気に過ごせました。身体を動かすイベントは年に2～3回してもらえたら嬉しいです。
- ・ いつも兄弟でゲームばかりで、たくさんの人と遊んだりコミュニケーションをとったり、身体を使った遊びができて、とても楽しく過ごせたと思います。学校の行き帰りで見守っている時よりもすごく安心して見ていられます。少し心が「ホッ」としました。ボランティアの方々も優しく接して下さってありがたかったです。
- ・ 毎日時間に追われて、なかなか身体をはって子どもと遊んでやることができない私と違って、一緒に遊んだり話をしたりしてくれるお兄さんお姉さんと過ごすことができ、子ども達はいつもと違う新鮮な刺激をもらったようです。進行など、少し戸惑っている場面もありましたが、いろいろなやり方をこれから学んでいていただきたいと思います。またどこかでお会いできるのを楽しみにしています。
- ・ 3いでさんねん。でも、がんばれたのでたのしかったよ！（Yちゃんより）

<ボランティアの感想から>

- ・ 障害児さんと接するのが初めてで緊張して来たのですが、私が今まで関わらせていただいた子どもさんと何も変わらず、目を見て話せば伝わるし、分かり合えるということを体験できとても勉強になりました。
- ・ 今日はとても楽しかったです。Mちゃんと会った時、不安な気持ちはあまりありませんでした。顔を見て仲良くなれるなど思えたものもあります。最初はあまり近づいてくれなかったんですけど、手を差し出した時、笑顔で近づいて手を出してくれ、なんともいえない喜びがありました。ゆっくり、短く話しかけたら返事もしてくれるし、最後には抱きついてくれました。学んだことは、普段どおりしていれば相手も普段どおりにしてくれる。自分が心を開いたら、相手も少しずつでも近づいてくれることです。Mちゃんは私をサポートしてくれました。今度また、こんなボランティアに参加したいと思っています。
- ・ 普段、他大学の人と一緒にボランティアをする機会がないので、すごく貴重な体験になりました。ボランティアの人数も多く、楽しい一日でした。複数の大学のサークルで協力しあう体制を「ほうぷ」さんに作ってもらえたらすごく嬉しいです。



- ・ 今日とはとても楽しみにして来ました。期待通り、Hちゃんという時間はとても楽しめました。自分がどうしたらいいかわからない時は、他のボランティアの人に助けられたり、たくさん教わるがありました。Hちゃんが笑ってくれたり、顔をとても近くしてニコって嬉しそうにしてくれたりして、本当に嬉しかったです。次は、私自身、積極的にもっとできたらと思います。
- ・ 初めはすごく自分のことをおびえていて、話しかけたりしてくれなかったのに、やがて仲良くなってきて、かなり楽しい時間が過ごせました。今まで僕は、Hくんと同じ障害をもつ人と接したことがなく、初めての体験だったので、かなり緊張していたのですが、やはり相手にも緊張が伝わったんじゃないかなと思いました。でも、話してたら自然と笑顔が出てきて、相手もその笑顔に笑顔を返してきてくれて、それで仲良くなれた気がします。これからも、こういう機会を増やしていければと思います。
- ・ ボランティアというものに今回初めて参加させていただきました。子ども達と接するのはすごく楽しかったです。ただ、イベント自体は不満の残るものでした。もっと、スムーズに進行できたと思うし、盛り上げることができたと思います。それを可能にするためにしっかりと準備をすることが大切だと思いました。子ども達や親御さんを待たせる時間が多くなって申し訳なかったと思います。もっと自分からいろいろ考えて動けるようになりたい！担当したJくんとは、今日が初対面。僕もボラが初めてだったので、お互い緊張してしまって…という感じでした。次はもっと楽しくやっていきたい！JくんもHちゃんもめっちゃかわいい！次、またこのような機会があるときには、是非準備段階から参加したいと思います。
- ・ 今日とはとても楽しく過ごさせてもらえました。反省点としては、進行の合間合間がすごく空いてしまったり、他のボランティアの方々との連携が取れなかったことです。ただ、怪我をする人も無く、楽しそうに過ごしていたようなのでよかったです。今日の活動で感じたことは「難しい」ということでした。もっともっと勉強する必要を実感しました。

<保護者からボランティアのみなさんへ>

- ・ 子ども達の顔が思い浮かばない中でスポーツゲームを計画するのはとても難しいことだったと思います。障害物競走はボランティアと肉弾戦(ボランティアによじ登る抱きつくなど)があったほうが楽しかったかな。最後のなべなべ底ぬけは、「手をつなぐ」があつてよかったと思います。ふれあうってもっと具体的に触るってことを考えると楽しくなるよねと思いました。
- ・ 障害児と接するのが初めてという学生さんも次回へ向けて意欲が感じられたのが嬉しいです。具体的に反省点もあがり、今回のことを活かして、これからの活動を期待しています。1回限りで終るのではなく、回を重ねていくことでいい活動になっていくと思います。今後も活動を続けていただき、しかも、横のつながりも太くなって、楽しく活動してほしいと思います。

<ほうぷスタッフから>

こちらの準備不足や当日の進行サポートが充分でなく、大変ご迷惑をおかけしました。さまざまなご指摘をいただきありがとうございました。反省を次回にいかしていきたいと思います。後日、何人かの保護者から、家族で夕食時にスポーツ大会の話で

盛り上がったとか、子どもが嬉しそうに報告してくれたという連絡がありました。また、企画から参加したいというボランティアの感想があり、大変心強く思っています。

ボランティアの皆さんは、子ども達と初めて出会う時、きっと戸惑われたと思います。障害の有る無しにかかわらず、誰でも初対面の時には緊張します。ましてや、初めての場所で初めての相手と遊ぶ子ども達は、緊張のあまり、走り回ったり、固まったり、いろんな表現があったと思います。ありのままの自分を出して楽しんでもらうには、こちらも心を開いて接していかなければなりません。時間と場を共有しながら試行錯誤していかなければ、関係を築くことはできません。ボランティアの中には、この短いかかわりの間に感性豊かに子どもとの関係を作ろうと頑張った方々もいらっしゃり、とても良かったと思います。「自閉症」とか「ダウン症」とか、「障害理解」をしても、子どもとかかわっていくことは難しいです。また、1回の短い時間では、子どもの行動(結果)しか見えず、思い(行動の原因)までキャッチするのは難しく、誤った障害理解につながる恐れもあります。「障害」を理解するのではなく、Aちゃん、Bくんという、ひとりの子どもとして分かろうとすることが大切です。

共に笑い、共に怒り、共に泣いて関係を築いていく中で、ボランティアの皆さん自身が、得ていくものがたくさんあると思います。

そこで！！ 個別に継続して子どものサポートをしてくださる方を募集しています！
詳しくは、7ページのボランティア募集を見てください。



2.障害をもつ子ども達の音楽広場

— 2006年4月～12月の報告 —

大阪市立城北市民学習センター スタジオ

毎月1回(日曜日) 計9回

参加者 9名(10回で、のべ80名)

講師 2名/各回、 学生ボランティア 1名/各回

近くで安価に子ども達が音楽を楽しむ場が欲しいというお母さんたちの想いを受けて、ほうぶではNPO法人設立時から、「音楽広場」の活動をしてきました。一人ひとりの子どものペースで、継続して、音楽の時間を作るために、参加メンバーを固定して(9名)、個別に、月1回(第3日曜日を基本)開催してきました。音楽療法士Aさんとピアノ講師Nさんが、毎回、たくさんの楽器を持参して、9名の子ども達と音楽を通してかかわって下さいました。そして、毎月、子ども一人ひとりの「音楽広場通信」を送って報告をして下さいました。

子ども達は、毎回楽しみにして、欠席も遅刻もほとんどなく、保護者から離れ、それぞれの時間を作り出し、成長をしてきました。

<参加者の感想から>

- ・ いつも受け身の子なのですが、楽器の音、響きを聞いているだけではなく、少しずつではありますが、自分で鳴らしてみたい、触ってみたいの意思がでてきました。「おしまい」の声に不服の表情も。もう少し触ってみたいと言わんばかりの手が楽器に触れ、音が出るとニコッとご満悦！好きな楽器、好きな音楽が沢山体験できました。

- ・ 多種の楽器を用意して頂いたり、色々な取り組みを考えて頂いたりして、学校の音楽の時間とは違う感覚が、子どもにはいいと思います。ただ、今期は時間が少し短くなったので、調子良くなって来たところで終わる事もあり、少し残念な時もありました。
- ・ 即席で、替え歌を作って歌ったり、曲に合わせてスタジオいっぱい動いたり、気に入った曲をリクエストしたり…。言葉のやり取りをしながらも「音楽」を感じて、30分間めいっぱい楽しんで過ごせたようでした。毎月送っていただく音楽広場通信を読んで、触って遊んだ楽器の名前が少しずつ増えていったのがとても印象的でした。
- ・ 月1度ですが、今では生活の一部になっています。自分から楽器を手取ることもあります。音楽が大好きで、ダンスには程遠いけどリズムに乗って体も動きます。この調子で音楽との関わりを続けられたら良いなと思います。
- ・ ゲームのスーパーマリオの中で流れる曲が弾きたくて、楽譜を作ってもらい、少しずつ、少しずつ練習しました。頭の中での曲のテンポと実際に自分が奏でるメロディがかみあわず、悔しくて泣いてしまったこともありましたが、講師の励ましや、お二人にしっかりと気持ちを受け止めてもらえたことで納得できたのか、その後も「弾きたい。頑張る。」と、集中して取り組んでいたようです。もう少しで完成！まずは、楽しく、そして達成できた時の喜びを味わってほしいな…と思っています。
- ・ 今年度から親子分離で行なわれると聞いた当初は「エッ！わたし1人？」と不安そうに言っていました。母も不安と期待とでスタートしました。でも、「何時に出るん？」そわそわと楽しみにし、参加した後もきっと楽しかったのだろうな！清々しい顔をして歌を歌いながら帰ります（今日広場で歌った歌かな？）。一番大きく変わったのは、音楽広場で声を出して自信がついたのだと思います、学校の演劇活動で少しですが台詞を言ってみたり、ミニバスケの練習で小さな（かな！）声でかけ声を出せるようになったりしました。そして、最近、家や学校でガラガラとよく笑うようになりました。
- ・ 毎回、本人には、あっという間に時間が来てしまう、まだ足りない！というような様子で、すごく集中している音楽の時間のようです。言葉を使つてのコミュニケーションがまだまだ難しい子ですが、講師がすごく的確に本人の意思を汲み取ってくださってやっていただいているからこそ、長い時間も集中していただけるのだと思います。このごろはピアノに合わせて声を出して歌っていたり、楽器を鳴らしたり…。いろいろ広がりも見られるようで、うれしく思っています。
- ・ 1年目、人や場所にお互い慣れる。2年目、音楽を身体いっぱい感じる。3年目、楽器に興味を持ち始め、身体でリズムを表現できるようになった。家でも常に音楽広場のDVDをつけてと要求、予習復習を欠かしません(笑)。中でも自分が映っている”世界で1つだけの花”がかかっているのが1番好きなようです。中学で、和太鼓を始めたこともあり、生活の中でも音楽にあわせて身体でリズムを取ったり、バチで箱などをたたいたりして楽しんでいることが多くなりました。3年経って「リズム」に共感できるようになり、音楽を他の人たちと楽しめるようになったと思います。
- ・ 行く前には、「ピアノ！」と何度も言っているのに、会場に着くと、しばらく逃げ回っています。恥ずかしいのか、講師をからかっているつもりなのか。でも、ピアノに向かうと、時間いっぱいまで、「もいっかい」と繰り返し要求して弾いています。ピアノを通して、伴奏者とのコミュニケーションを楽しんでいるようです。また、去年は音楽広場で練習した曲を人前で弾くことにチャレンジできたことも良かったです。

今さっき、ようやく息子が寝ました。「さあ～、今から私の時間」と、久しぶりにペンを取りました。2006年1月に私は初めての子どもを出産しました。今は仕事を休み、もうすぐ1歳になる息子と過ごす毎日です。

今までの私は仕事や趣味、自分のやりたいことをする、そんな生活でした。その生活から一変。何も自分の思い通りにならない。今まで仕事を通じていろんな人に出会う機会が多かっただけに、ほとんど息子としか過ごさない、だんだん社会から取り残される不安を感じるようになりました。もともと家事や育児が得意じゃない私。「こんなはずじゃなかったーっ」と思ってしまうことも、この1年は度々ありました。

しかし、その反面、人の温かさを感じやすくなりました。夫が仕事から早く帰ってくるととてもホッと、夫がこれほど精神的な支えになっているんだと感じたり、周りの人のちょっとした優しさを身にしみて感じ、私は一人で生きているんじゃない、周りの人に支えられて生きているんだって実感できました。

そんなこんなで一喜一憂する毎日、早いもので一年が過ぎようとしています。いまだに一番応えるのが睡眠不足。睡眠不足になると身体的にも精神的にもしんどくなります。といっても、私の睡眠不足は息子が大きくなるまでの一時的なもの。私が活動している「旭医療的ケアネットワークの会『こころ』」のお母さんたちは吸引のため慢性的な睡眠不足に陥っています。そんなお母さんたちの助けになればと思い、サークル設立当初から常に自分に何ができるか模索している毎日ですが、未だに答えが見えない日々。でも息子を通して、妊娠中の人の気持ち、子育て中の人の気持ち、そして睡眠不足の辛さなど、今まで何となく頭で分かっているだけで実際に分かっていたことを感じるようになるようになりました。それはきっと子育てだけじゃなくて、人生の中でいろんな楽しいこと辛いことを経験することで、人は一回りも二回りも大きくなるんじゃないかと思います。

私は今は息子を通して自分を見つめなおし、自分育てをさせてもらっているなあと感じています。そして、この1年で感じたいろいろな経験を「ほうぶ」や「こころ」の活動にいかしていければと思っています。

☆お知らせ☆

- 「あさひ子育ておたすけマップ」第2版を発行しました。
旭区役所1階（総合窓口）、旭区社会福祉協議会、子育てプラザ（旧トモノス）、生江人権文化センター、などに置いてあります。ご活用ください！
問合わせ先：ほうぶ、又は、あさひ子育てネットワーク「きしゃぽっぽ」参加グループ
- 「車椅子トイレOKシール」の張り替えを行なっています。シールが古くなった所、新規にシールを貼ってくださる施設の方はご連絡下さい。
連絡先：ほうぶ、又は、旭区社会福祉協議会（6957-2200）

編集後記

障害者自立支援法の実施や教育基本法の改正に怒り、相次ぐいたましい事件の報道に「いのち」が軽くなっていく社会を嘆いた2006年でした。

福祉も教育も、いったいどこに向かっていくのでしょうか？

しかし、昨年末、国連総会で「障害者の権利条約」が採択されるという明るいニュースもありました。日本での早い時期の批准、そして、その効果を発するため国内の法制度や施策の見直しが行なわれていくことを願っています。

「地域生活サポートネットほうふ」は、今年も、生活者の視点で一人ひとりの想いに寄り添って活動していきます。よろしく願いいたします。

今年は、「いのち」のことを考えるイベントも開催予定です。お楽しみに。

みんなで笑いあえる2007年にしたいものです。

